

早いものでもう師走、何かと慌ただしくなってきました。今年の師走は急に寒くなったり、また暖かくなったりと寒暖の差が大きいですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。さて、防災タイムズ第54号では、8月に行われました防災あんしん調査結果についてご紹介させていただきます。

○第20回 防災あんしん調査票 集約結果

10月に第20回防災あんしん調査票の集約を完了しました。

今回の調査票の回収率は80.5%と、前年度の84.1%に比べ3.6ポイント減少しましたが、過去10年間の平均値84%とほぼ近値でした。趣旨を理解しご協力いただきました住民の皆様には厚く御礼申し上げます。

調査票の目的は災害発生時にいち早くご近所の安否を確認し、より迅速な救命救護への活用や、救援物資等の適切な配分などに使用するものですので、さらに多く回収できるよう、今後も検討を進めていきます。

なお、防災あんしん調査票は平和が丘学区独自の取り組みですが、平成23年の東日本大震災以降、行政や他の学区等からも特に注目されています。

(1) 回収結果

	配布 世帯数※1	報告 世帯数	調査票 回収率	総人数※1 (報告人数合計)	一帯あたり 平均人数	75歳以上 世帯数	要援護者 人数※2
R05年度	1,863世帯	1,500世帯	80.5%	3,751人	2.50人	526世帯(35.1%)	111人(7.4%)
R04年度	1,880世帯	1,582世帯	84.1%	3,992人	2.52人	474世帯(30.0%)	140人(8.8%)

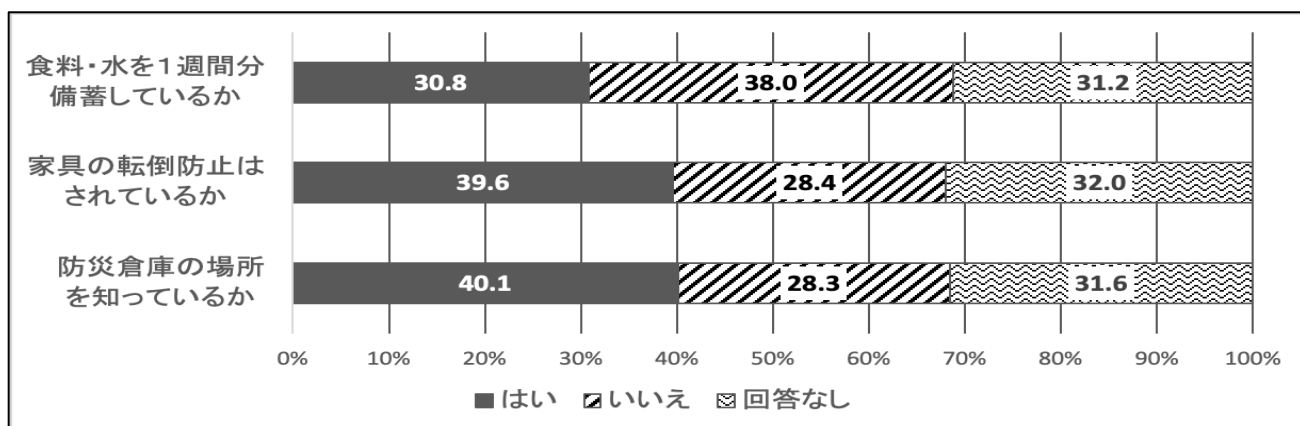
※1：調査票の配布ができない管理マンション等があるため、配布世帯数および総人数等は学区全体の
 正直より少なくなっています。

(※2：要援護者人数/報告世帯数)

75歳以上の後期高齢者がおられる世帯は学区全体で35.1%と、昨年度30.0%に対し5.1ポイント増加しており、また、5つの自治会で昨年度より世帯数が増加していました。

また、災害時に何らかの援護(介助)が必要な方が、昨年度より29人減少し111人となりましたが、災害時には自主防災会やご近所同士での助け合いが必要になります。日頃から顔の見えるお付き合いをお願いします。

(2) 災害に向けた備え



家具の転倒防止や防災倉庫の場所を知っていると回答された世帯は約40%でしたが、食料・水を備蓄されている世帯は約31%と少ない状況でした。災害時にライフラインが止まっても自力で生活できるよう食料や水などを1週間分備蓄しておきましょう。

○「自分で考え行動し、自分の身を守ることができる生徒を育てるために」(猪子石中学校)

平素よりお世話になっております猪子石中学校から、生徒に対する防災教育について寄稿いただきましたので、掲載させていただきます。

「自分で考えて行動し、自分の身を守ることができる生徒を育てるために」

名古屋市立猪子石中学校

11月7日(火)に、地震を想定したシェイクアウト訓練(防災訓練)を行いました。生徒には、事前に「今週のどこかで訓練が実施される」ことを伝えてありました。

シェイクアウト訓練とは、地震の揺れから命を守るための「DROP(姿勢を低く)」、「COVER(頭を守る)」、「HOLD ON(じっとする)」の、3つの動作を身に付けるための地震防災訓練です。

訓練の緊急地震速報が放送で流れると、教室にいた生徒は机の下へ、廊下や階段にいた生徒は、自分の周囲を見て「落ちてこない」「倒れてこない」「動いてこない」場所へ素早く移動し、上記の3つの動作をすることができていました。

訓練の放送までは、生徒が話したり笑ったりする声が響いていた校舎でしたが、訓練開始とともに静まりかえり、しゃがんだままじっとして、次の指示を待つ生徒の姿が見られました。生徒は、自ら考えて身を守る行動ができたと考えます。

猪子石中学校では、4月には、地震・火災を想定した避難訓練、9月には、緊急メールを配信し、緊急時の引き渡し訓練を実施しました。

今年の9月1日は、関東大震災から100年目でした。予想を超える災害が、近年、日本各地で頻発しています。災害に備えて訓練すること、様々な災害について理解し、正しい対処法を身に付けることが大切と考えます。

生徒には、災害に対する正しい知識をもとに適切に行動をして、まず、自分の身を自分で守り(自助)、災害が収まった後は、自分たちのできる範囲でできることに取り組み、他者を救うことができる(共助)ようになってほしいと考えています。

□防災お役立ち情報(自主防災会)

自主防災会(自主防災組織)は、昭和34年の伊勢湾台風による甚大な被害を教訓として制定された「災害対策基本法」により生まれた、地域住民による自発的・自主的な防災組織です。

現在発生が危惧されている「南海トラフ地震」などの大規模な災害が起こった場合、行政をはじめとする防災関係機関は災害の復旧や救援救助に全力を注ぎますが、被害の防止・軽減のためには地域住民の皆さんによる初期消火や、負傷者の救助などの自主的な防災活動が大変重要になります。

平和が丘学区では自治会単位で構成しており、学区総合防災訓練への参加や自主防災会独自の防災訓練を実施しています。住民の皆さんも率先して訓練に参加していただき、いざとなった時にお互いに助け合える環境づくりにご協力下さい。

<編集後記>

冬場は空気が乾燥することのほか、暖房器具等の火気を使う機会が増えることから、スイッチの切り忘れなどで火災が発生しやすいと言われていています。暖房器具の扱いには十分注意していただき、皆さま元気に新年を迎えましょう。(編集 前島)



平和が丘だより

検索